

CASBEE広島における重点項目の環境配慮設計概要

CASBEE-広島 2014年版

※下表の空欄に環境配慮設計の概要をコメントしてください。

広島県立大学附属高等学校 建築学校設置計画工事

配 慮 項 目			評価点	重み係数	内 訳					
■ 1. 「地球温暖化対策」の推進										
1.1 建物の熱負荷抑制										
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください	3.0	0.00	Q1	室内環境	2	温熱環境	2.1	室温制御	2	外皮性能
コンクリートの躯体厚や複層ガラス、断熱材の塗布を窓廻りに徹底し、建物の断熱性能を向上している。	0.0	0.00								
	4.0	1.00	LR1	エネルギー	1	建物の熱負荷抑制				
小計	4.0	0.03								
1.2 自然エネルギーの利用										
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください	4.0	1.00	LR1	エネルギー	2	自然エネルギー利用				
エントランスから続く大吹き抜けを利用した重力換気の採用。										
床下ビットを利用したクールヒートトレンチの採用。										
小計	4.0	0.06								
1.3 設備システムの高効率化										
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。口	4.0	1.00	LR1	エネルギー	3	設備システムの高効率化				
効率の良い個別熱源方式を採用。										
小計	4.0	0.29								
1.4 設備システムの効率的運用										
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください	3.0	0.50	LR1	エネルギー	4	効率的運用	4.1	モニタリング		
	3.0	0.50	LR1	エネルギー	4	効率的運用	4.2	運用管理体制		
小計	3.0	0.12								
1.5 資源・マテリアル対策										
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。口	4.0	0.10	LR2	資源・マテリアル	1	水資源保護	1.1	節水		
・建物の基本構成をRC造＋乾式壁の組み合わせとして	3.0	0.11	LR2	資源・マテリアル	1	水資源保護	1.2	雨水利用・雑排水再利用	1	雨水利用システム導入の有無
解体がしやすい構成としている。OAフロアなど再利用	3.0	0.05	LR2	資源・マテリアル	1	水資源保護	1.2	雨水利用・雑排水再利用	2	雑排水再利用システム導入の有無
できる建材の利用や場所打ちコンクリート杭は高炉	3.0	0.08	LR2	資源・マテリアル	2	非再生性資源の使用量削減	2.1	材料使用量の削減		
セメントを使用している。	3.0	0.15	LR2	資源・マテリアル	2	非再生性資源の使用量削減	2.2	既存建築躯体等の継続使用		
・節水こま、擬音装置の採用	5.0	0.15	LR2	資源・マテリアル	2	非再生性資源の使用量削減	2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用		
	3.0	0.15	LR2	資源・マテリアル	2	非再生性資源の使用量削減	2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		
	3.0	0.08	LR2	資源・マテリアル	2	非再生性資源の使用量削減	2.5	持続可能な森林から産出された木材		
	5.0	0.15	LR2	資源・マテリアル	2	非再生性資源の使用量削減	2.6	部材の再利用可能性向上への取組み		
小計	3.7	0.35								
1.6 ライフサイクルCO2排出率										
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください	3.4	1.00	LR3	敷地外環境	1	地球温暖化への配慮				
日射熱量の大きい東西の壁面を小さくする東西に長い棟配置、敷地の気候を活かした地熱の利用、エネルギー効率の良い設備機器の採用等により、LCG02の削減を図っている。										
小計	3.4	0.15								
1.「地球温暖化対策」の推進の評価										
	3.7	0.71								
■ 2. 「ヒートアイランド対策」の推進										
2.1 温熱環境の向上										
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。	3.0	0.49	Q3	室外環境(敷地内)	1	生物環境の保全と創出				
	3.0	0.24	Q3	室外環境(敷地内)	3	地域性・アメニティへの配慮	3.2	敷地内温熱環境の向上		
	3.0	0.27	LR3	敷地外環境	2	地域環境への配慮	2.2	温熱環境悪化の改善		
小計	3.0	0.97								
2.2 交通負荷抑制										
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。	3.0	1.00	LR3	敷地外環境	2	地域環境への配慮	2.3	地域インフラへの負荷抑制	3	交通負荷抑制
小計	3.0	0.03								
2.「ヒートアイランド対策」の推進の評価										
	3.0	0.20								
■ 3. 「長寿命化対策」の推進										
3.1 耐用性の向上										
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。	2.0	0.18	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	2.1	耐震・免震	1	耐震性
	3.0	0.27	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	2.1	耐震・免震	2	免震・制振性能
	3.0	0.11	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	2.2	部品・部材の耐用年数	1	躯体材料の耐用年数
	3.0	0.11	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	2.2	部品・部材の耐用年数	2	外壁仕上げ材の補修必要間隔
	3.0	0.05	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	2.2	部品・部材の耐用年数	3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔
	3.0	0.05	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	2.2	部品・部材の耐用年数	4	空調換気ダクトの更新必要間隔
	3.0	0.11	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	2.2	部品・部材の耐用年数	5	空調・給排水配管の更新必要間隔
	3.0	0.11	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	2.2	部品・部材の耐用年数	6	主要設備機器の更新必要間隔
小計	2.8	0.58								
3.2 設備の更新性										
(コメント) ※設計の計画工上段に配慮した事項を記載してください。	3.0	0.20	Q2	サービス性能	3	対応性・更新性	3.3	設備の更新性	1	空調配管の更新性
	3.0	0.20	Q2	サービス性能	3	対応性・更新性	3.3	設備の更新性	2	給排水管の更新性
	3.0	0.10	Q2	サービス性能	3	対応性・更新性	3.3	設備の更新性	3	電気配線の更新性
	3.0	0.10	Q2	サービス性能	3	対応性・更新性	3.3	設備の更新性	4	通信配線の更新性
	3.0	0.20	Q2	サービス性能	3	対応性・更新性	3.3	設備の更新性	5	設備機器の更新性
	3.0	0.20	Q2	サービス性能	3	対応性・更新性	3.3	設備の更新性	6	バックアップスペースの確保
小計	3.0	0.42								
3.「長寿命化対策」の推進の平均点(上記2項目)										
	2.9	0.09								
■ 重点項目の総平均(上記3項目)										
	3.5									